



TITLE:

# 展示会「吉田松陰とその同志」の 開催について

AUTHOR(S):

---

CITATION:

展示会「吉田松陰とその同志」の開催について. 静脩 1994, 31(2): 6-7

ISSUE DATE:

1994-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37274>

RIGHT:

った。振り返ってみれば、平成3年10月、鈴鹿家から寄贈を受け、同年度に第1年次分（第4分冊）の修補に着手して以来、3カ年の歳月と、約2千万円の経費を費やして完了したものである。鈴鹿本今昔物語集は、虫害がはなはだしく、見ることをはばかれたため、“幻の写本”として世間に知られていたが、今回の修補では、本紙を解体して、すべてのページを、破損の状況に応じて、現在求め得る最高の技術で裏打ちと補修を行い、本文を保護するため、新しく表紙と題簽を付加する等の処理が行われた。京大で受け入れた状態は、各分冊がそれぞれ白い美濃紙に包まれているのみで、表紙や書写した内容を示す題簽は存在していなかった。各分冊に“何巻が書写”されているか分からないので、無意味にページをめくり、破損がすすむ結果となっていた。

今回の修補では、国立国会図書館所蔵のマイクロ版や、日本古典文学体系（岩波）で点検しながら慎重に作業をすすめた。新しい表紙と外箱は、この資料が修補後に、重要文化財に指定されることも考慮して、他の重要文化財コレクションと同じ仕様でまとめられた。なお、題簽の文字は、朝尾直弘館長（文学部教授、国史学）の揮毫である。

この度の修補で、受け入れ後に京大で補修・変更を行ったのは次の事項である。

1. 各分冊の版型を若干大きくしたこと。

“のど”の部分に書き込まれていた文字を読みやすくするため、綴じ糸の位置を中心から外側にずらす必要が生じたこと、及び、最も大きい分冊の版型に全部の型を統一したためにおきたことである。

2. 版型が若干大きくなったため、新たに桐の外箱を作成した。※「今昔物語集」の墨書があり、また、裏に“尚堅舎藏”の朱の押印があった鈴鹿家の外箱は、別に大切に保存されている。

3. 本紙を解体したことで、“紙の裏”に書写されていた数行の文字を確認し、これを解説文に注記することにした。

4. 本紙の修補が終了し、製本にかかる前に、各ページ毎の写真撮影を行い、影印本作成のために完全なネガ・フィルム原版を作成した。

5. 修補で不要となった“こより”を使用して、紙

質の科学的な年代測定を行った結果、こよりについては鎌倉時代の紙が使用されていることを確認した。※名大年代測定資料研究センター（中村助教）に測定を依頼して判明した。

最後に、鈴鹿家から無償で寄贈を受けた経緯について、後日の記録のために述べておくこととする。今昔物語集は数十年前から京大図書館に寄託されていたが、平成2年6月頃、寄託解除の申し出があった。これに対して、貴重な文化遺産であり、また、研究資料としても極めて重要でありながら、虫害のため利用できない状態であること、また、京大が修補する場合の計画案と経費見積もりを提示し、個人の努力では健全な保存は困難なことなどを説明し善処をお願いした。

その後、鈴鹿一族で協議が行われ、“修理と、研究者への公開、”等を条件に寄贈していただける事となった。修補計画を実行するに際しては、西島前総長、井村総長を始め、事務局関係者の多大な御援助・御協力により、実現することができた。また、影印本の作成も日程に上っていると聞いている。

京都大学としては、鈴鹿家に、全国の研究者を代表して、ひたすら感謝するのみであった、ただ、幸いなことに、平成4年10月、日本政府は鈴鹿氏に紺綬褒賞を贈り感謝の意を伝えている。

私事で恐縮であるが、国文学研究資料館の創設準備にかかわったことがある。当時、国文学会の代表者が故久松潜一先生であった。若輩の役人にも、熱意を込めて国文学の研究資料の特色、例えば、書写されたものは、それぞれ別の写本であり、その異同を確かめることも国文学では重要な研究テーマとなっているなど、関係機関に陳情のお供をした我々にていねいに説明していただいたのも懐かしい思い出である。久松先生が育てられた研究者が鈴鹿家の善意の賜物であるこの資料を活用して、優れた研究成果を数多く発表されることを願っている。最後に、今回の無償寄贈から修理完了まで、実に多くの人々の御協力をいただいた。紙数に限りがあるため氏名を省略せざるをえないが、これらの人々に支えられ任務を終えることができたことに感謝の意を表するものである。

## お知らせ

展示会「吉田松陰とその同志」の開催

平成6年度の展示会を下記のとおり開催しておりますのでお知らせします。今回は、本館所蔵の維新

特別資料文庫から、吉田松陰を中心にした幕末の勤皇志士たちの事跡を、遺墨、遺品等から見る事ができる展示会です。

名 称：「吉田松陰とその同志」

会 期：平成 6 年 9 月 26 日(月)～10 月 28 日(金)

(日曜、祝日は除く)

午前 10 時～午後 5 時

場 所：附属図書館展示ホール (3 階)

講演会：「公武合体と尊皇攘夷運動」

講 師：佐々木克教授 (人文科学研究所)

日 時： 平成 6 年 10 月 14 日(金)

午後 3 時～4 時 30 分

会 場：附属図書館 AV ホール (3 階)

(雑誌・特殊資料掛)

## 電子版展示会の開催について

はじめに

「静脩」Vol.31、No.1 に掲載された、原田図書館情報大学教授の講演記録にもあるように、現在京都で開催されている ITU (国際電気通信連合) の総会にあわせて、電子図書館システム (以降は、愛称 Ariadne を使用) のデモンストレーションが、京都国際会館、けいはんなプラザ、そして京都大学を結んで行われています。京都大学附属図書館では、展示会「吉田松陰とその同志」の内容などを電子化して、Ariadne の一部として提供するとともに、附属図書館 4 階においてデモンストレーションを行っています。(9 月 26 日(月)～10 月 28 日(金)まで、土曜、日曜、祝日を除いて午前 10 時～午後 5 時)

### 1 Ariadne について

Ariadne は、電子図書館研究会 (代表者：工学部長尾教授) が研究・開発中のシステムで、画像、音声などを含んだハイパーテキストを検索できるソフトウェア、Mosaic をベースとしてその上にアプリケーションが構築されています。今回公開されているメニューには、「世界の図書館」「大学案内」「催物案内」等があり、書誌情報ばかりでなく、画像情報や全文データにもアクセスできます。サーバは、京都大学の工学部と附属図書館に、クライアントはサーバ設置場所以外に京都国際会館と、けいはんなプラザに置かれています。そして、これらサーバと

クライアントは、B-ISDN で結ばれ、大量情報の高速通信を実現しています。

電子版展示会は、メニューの中の「催物案内」を選択することによって、見るができます。

### 2 電子版展示会について

展示会「吉田松陰とその同志」の展示物は、京都大学附属図書館の所蔵する「維新特別資料文庫」の中の一部です。今回の電子化にあたっては、展示物だけではなく、同「文庫」中の巻物、軸物の大部分 (約 1000 点) を写真撮影しましたが、電子化した点数は 70 点程です。また未撮影の資料もまだ 1000 点程残っており、全体の電子化は今後の課題として残されています。

電子版展示会の内容は、各文献・資料の書誌情報、解説、人物解説、画像情報をハイパーテキスト化したものです。なお、インターネットを経由した海外からのアクセスも想定して、英文による解説等も入れています。画面上でリンクをたどって行くことによって、様々な順序で展示物を見ていくことが可能になりますので、自分の興味にあった展示会を仮想体験することができるといえます。また、画像情報は併設されているハイビジョンでも、より鮮明に見ることができます。(システム管理掛)

## LSN (Library Service News) の創刊

この度、附属図書館のサービスを利用者の皆さんに紹介することを目的とした新しいニュースレター、LSN (Library Service News) を創刊しました。

7 月 14 日に No.1 を刊行しました。今後は月 1 回 1 日に発行予定です。1 F メインカウンターおよび 3 F 雑誌・特殊資料掛カウンターで配布しています。開館日程表とあわせてご覧ください。(参考調査掛)

## 地下書庫の OPAC 稼働開始

9 月 1 日より、地下 2 F の 2 カ所 (エレベーターホール前と、バックナンバーセンター入口) に設置しているパソコン端末 (各 1 台) で、OPAC/ILIS 目録検索が利用できるようになりました。これにより、地下書庫で所蔵巻号の範囲や配置先、請求記号等の再確認が、1 F までもどらなくても可能になります。なお、使用できる時間は、月曜から金曜までの午前 9 時 (開館) から午後 4 時 45 分までです。

(参考調査掛)